

麻酔科

目標と特徴

山口労災病院において麻酔科専門医として必要な知識・技術を修得する。麻酔科標榜医が取得可能な研修であり、将来麻酔科指導医の受験資格を得ることができる。

教育課程

将来麻酔科専門医を志す人の教育課程

(1) 研修医配置予定

手術室内の麻酔業務に従事して、基本的知識と医師として必要な態度を修得する。

(2) 研修内容と到達目標

山口労災病院において基礎教育の後、臨床麻酔の基礎の修得を目標とする。

指導医について麻酔患者の術前、術中、術後管理の基礎を学ぶ。また、麻酔科、蘇生科学一般の知識、技術研修を更に深め、全身状態の良い患者から次第に全身状態の悪い患者の麻酔管理や、特殊麻酔、例えば新生児、老人麻酔等の麻酔を経験する。外来でペインクリニックの患者の治療を補佐し、対象患者および神経ブロックに必要な局所解剖について学び理解する。簡単な神経ブロックが安全に効果的に行えるよう習熟する。癌性疼痛を含めた難治性疼痛患者の疼痛管理法について学ぶ。

他科の研修では臨床医として幅広い医学知識・技術を修得することを目標とする。

具体的な行動目標は以下の通りである。

① 臨床麻酔

(1) 術前管理

- a 術前診察において患者の病歴、全身状態の評価ができるよう一般的医学知識・診断技術を身につける。
- b 麻酔法の選択、周術期の管理計画をたてる。
- c 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬、鎮痛薬の薬理作用とそれらの適応・使用法・禁忌を理解する。

(2) 術中管理

- a 麻酔器、その他周辺機器の構造・機能について理解し、その扱いや整理技術を身につける。
- b 気道確保、気管挿管、人工呼吸の技術を学ぶ。
- c 静脈路の確保、輸液、輸血の選択・適応について理解し、計画・実行できるようにする。
- d 血液ガス分析に精通する。
- e 心電図、血圧測定、体温測定、呼気ガス測定が行える。
- f 麻酔中の呼吸・循環・代謝異常の迅速な把握ができる。

(3) 術後管理

手術後の疼痛、ショックの対策法、肺合併症などの予防法を理解する。

(4) 局所麻酔

脊椎麻酔、硬膜外麻酔、伝達麻酔の適応、利点、欠点、手技を学ぶ。

(5) 特殊麻酔

- a 小児・老人麻酔について学ぶ。

- b 脳外科疾患の病態を理解し、麻酔計画を立てる。
- c 血管外科疾患の病態を理解し、その周術期の管理計画を立てる。
- d 妊娠に伴う生理学的変化を理解し、帝王切開術の麻酔計画を立てる。

② ペインクリニック

- (1) 痛みの発生機序、痛覚の伝導について理解する。
- (2) 三叉神経痛、帯状疱疹などの疼痛疾患に対する除痛法を理解する。
- (3) 硬膜外ブロック、星状神経節ブロック法を学ぶ。
- (4) 癌末期患者の除痛法を理解する。

③ 蘇生・集中治療

- (1) 心肺蘇生法の理論と手技を修得する。
- (2) 意識障害の判定が行える。
- (3) 呼吸・循環不全の病態を理解する。
- (4) 重症代謝性疾患（糖尿病、尿毒症）の病態を理解する。
- (5) 重症感染症の病態を理解する。
- (6) DICと多臓器不全の病態を理解する。

④ 研究

- (1) 自主的にテーマを見つけ、研究方針を立てる。
- (2) 学会発表、医学専門誌に投稿する能力を身に付ける。

6 教育に関連する行事

症例検討会 : 毎朝その日の症例検討を行う。
カンファレンス : 週に1回の勉強会を行う。

7 指導体制

麻酔科指導医がほぼマンツーマンで実際の指導を行う。第2期の研修医は、ある程度自分の判断で診療を行えるが、重大な決定は指導医の指示を仰ぐ。

8 研修医評価方法

研修開始にあたり評価項目表を配付し、これに記入させることにより自己評価を行わせる。指導医は自己評価結果を随時点検し、研修医の到達目標達成を援助する。2年間のプログラム終了時には山口労災病院臨床研修委員会が到達目標を認定する。

9 プログラム終了の認定

研修医から提出された到達目標達成評価表に基づいて終了を認定する。

10 プログラム終了後のコース

研修終了後の進路については、自由である。

山口大学医学部附属病院および関連病院において引き続き麻酔科研修を継続するか、山口大学大学院医学研究科に入学することも可能である。